

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時：令和 年 月 日 午前・午後 時
調 査 者：氏名

1 建築物の概要

- ア 建築物の所有者：
イ 建築物の所在地：
ウ 階数：

2 前提条件の確認（いずれも必須）

前提条件	チェック欄
木造住宅である	☐
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	☐

※いずれにも該当しない場合は本診断の対象外となります。

3 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目（1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断）

一見して倒壊の危険性があると判断できる項目		チェック欄
建物全体	全体又は一部に崩壊がある	☐
	全体又は一部に傾斜や変形がある	☐
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	☐
	基礎がコンクリート以外（玉石、石積み、ブロック等）である	☐
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	☐
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	☐
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	☐
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	☐

※該当する項目が1つ以上ある場合、倒壊の危険性があると判断しますので、4に当該部分の写真を添付してください。この場合、5の記入は不要です。

4 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目に該当する部分の写真

[写真1 はり付け]

写真 1

- ☐建物全体
- ☐地盤・基礎
- ☐老朽・腐朽

[写真2 はり付け]

写真 2

- ☐建物全体
- ☐地盤・基礎
- ☐老朽・腐朽

[写真3 はり付け]

写真 3

- ☐建物全体
- ☐地盤・基礎
- ☐老朽・腐朽

5 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が 0.8 未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとします。建築物を調査し、6 に計測した壁の位置、長さを記入し、次の表で壁の割合を計算してください。

※この計算は 2 階建て以下の住宅の場合に実施できます。3 階建て以上の住宅で「3 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」に該当がない場合は他の方法で診断してください。

方向	(ア) 壁の長さ (m)	(イ) 建面 (㎡)	(ウ) ア/イ	(エ) 必要値	(オ) 壁の割合 ウ/エ
X					
Y					

ア 壁の長さの合計

① X (横) 方向

①

m

② Y (縦) 方向

②

m

①②のうち小さいほうを記入してください。

ア

m

イ 面積

イ

㎡

ウ 単位面積あたりの壁の長さ

ア

÷

イ

=

ウ

エ 必要な壁の長さ

エ

m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

屋根の種類	平屋	2 階建て
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

オ 壁の割合

ウ

÷

エ

=

オ

6 壁の割合（記入用紙）

壁の長さの計測

A blank coordinate grid for plotting. The grid consists of a 20x20 square of major squares, each further divided into a 5x5 square of minor squares. The horizontal axis is labeled 'X 方向' (X direction) at the bottom left, and the vertical axis is labeled 'Y 方向' (Y direction) at the top left. A scale bar is located in the bottom left corner, consisting of a horizontal line with arrows at both ends, labeled '1 m'. The grid is intended for plotting the path of a particle as described in the text.

※2階建ての場合は1階の住宅内外の壁の長さを計測してください。壁を太線で記入し、それぞれの壁の長さをメートル単位としてそのわきに書き込んでください。窓・ふすま・障子・ドアなどの開口部分は記入不要です。

※「わが家の耐震診断と補強方法」(監修 国土交通省 編集 財団法人日本建築防災協会 社会法人日本建築士連合会)の壁の割合の計算に基づく計算方法です。